

エコアクション21



環境経営レポート

2023 年度版

(対象期間：2023 年 4 月～2024 年 3 月)



KDK **加藤段ボール株式会社**

野田工場・いわき工場・須賀川工場・藤沢工場



®環境省

エコアクション21

認証番号 0011852

作成：2024 年 5 月 7 日

目 次

1. 組織の概要	 P. 3
2. 対象範囲	 P. 6
3. 環境経営方針	 P. 7
4. 環境経営目標	 P. 8
5. 環境経営計画	 P. 11
6. 環境経営目標の実績	 P. 12
7. 環境経営計画の実績	 P. 17
8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	 P. 21
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟等の有無	 P. 25
10. 代表者による全体評価と見直し・指示	 P. 27

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

加藤段ボール株式会社

代表取締役社長 堀井徹

(2) 所在地

本社・野田工場 千葉県野田市木間ヶ瀬 5367-1

いわき工場 福島県いわき市小名浜字芳浜 11-71

須賀川工場 福島県岩瀬郡鏡石町大宮 360-18

藤沢工場 神奈川県鎌倉市関谷 1718

(3) 環境管理責任者名及び担当者連絡先

責任者 代表取締役社長 堀井徹 TEL：04-7198-2235

担当者 総合企画部部長 鈴木健一 TEL：04-7198-2235

総合企画部係長 片見由紀子 TEL：04-7198-2235

(4) 事業内容

段ボールケースの製造販売、印刷化粧箱及び緩衝材、その他梱包資材一式販売

(5) 事業の規模

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
売上高(単位百万円)	3,191	3,221	3,085	3,272	3,556	3,759

	野田工場	いわき工場	須賀川工場	藤沢工場
従業員総数	51 名	46 名	24 名	14 名
(上記の内 パート数)	10 名	6 名	6 名	7 名
延べ床面積	7,037 m ²	4,524 m ²	1,803 m ²	1,017 m ²

(6) 2024年2月完工 いわき工場にて新工場増床・設備更新



設備更新として、最新鋭の印刷機を導入し、更なる生産性向上を図ると共に、印刷検査装置・自動結束機・積み付けロボットを備えた、品質向上及び人にやさしい省力化も考慮した設備を配備しました。

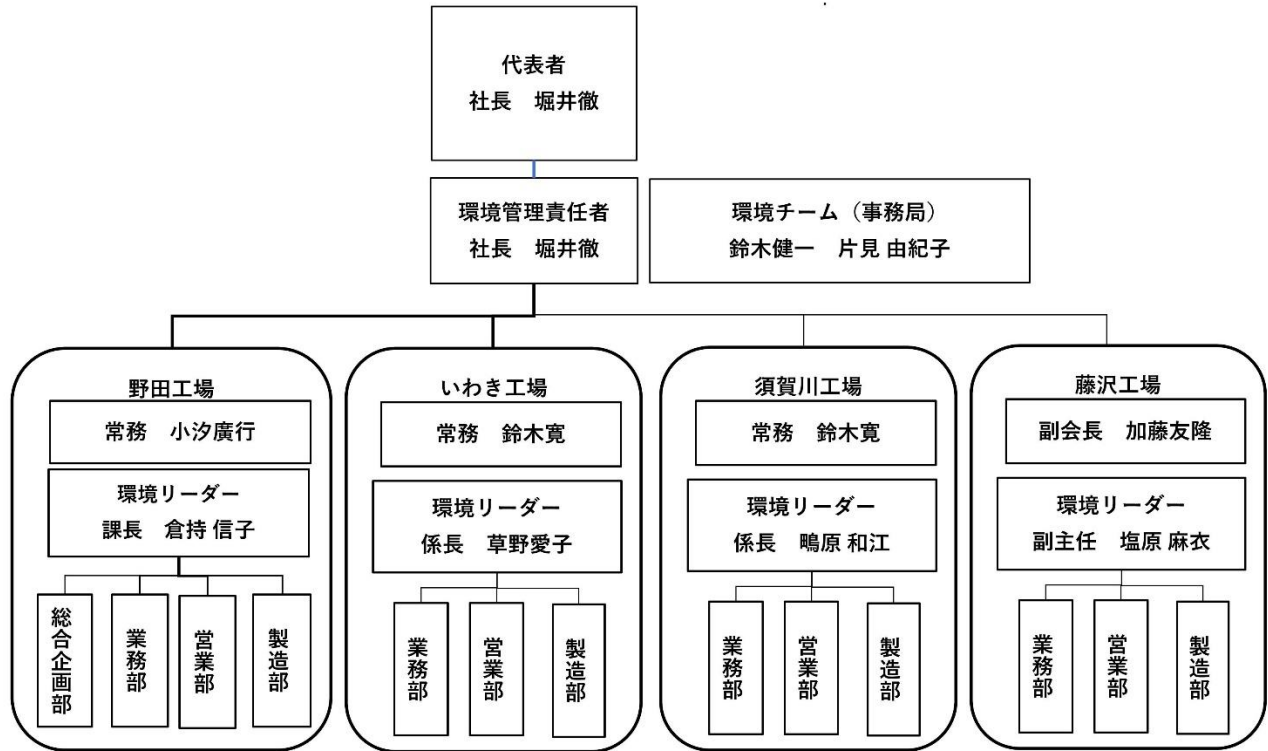


また、新工場屋上には、日中の電力を全て賄うことができるよう太陽光パネルを設置するなど、環境配慮型設備を導入しました。



(7) 実施体制

加藤段ボール株式会社 実施体制図及び役割・責任・権限表

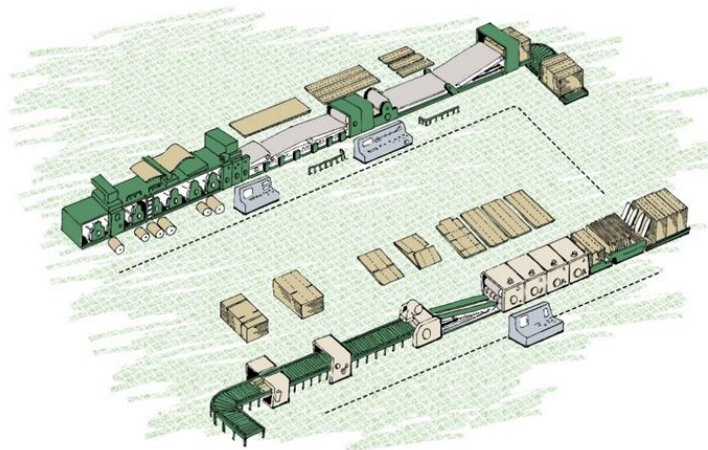


担当	役割・責任・権限
代表者	- 環境経営に関する統括責任 - 環境管理責任者を任命
環境管理責任者（社長）	- 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 - 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 環境目標・環境活動計画書を承認 - 全体の評価と見直しを実施 - 環境活動レポートの承認 - 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境目標・環境活動計画書を確認 - 環境活動レポートの確認
環境チーム	- 環境活動の取組結果を代表者、環境管理責任者へ報告 - 環境管理責任者の補佐、EA21 の事務局 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境目標、環境活動計画書原案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） - 環境に関する内部監査の計画 - 環境に関する内部監査の実施・報告
担当	役割・責任・権限
工場長・環境リーダー	- 自工場における環境方針の周知 - 自工場の従業員に対する教育訓練の実施 - 自工場に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告

	・自工場に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自工場に想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 ・自工場の問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

2. 対象範囲

- 1) 認証・登録番号： 0011852
- 2) 認証・登録事業者：加藤段ボール株式会社
千葉県野田市木間ヶ瀬 5367-1
- 3) 事業活動： 段ボールケースの製造販売、印刷化粧箱及び緩衝材、
その他梱包資材一式販売
- 4) 対象事業所：本社・野田工場、いわき工場、須賀川工場、藤沢工場
- 5) 認証・登録日：2017年6月7日
- 6) 更新・登録日：2023年6月7日
- 7) 有効期限： 2025年6月6日
- 8) 環境経営レポート：活動期間 2023年4月1日～2024年3月31日
作成日 2024年5月7日



3. 環境経営方針

<基本理念>

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化への対応や、有限である資源の有効活用が人類共通の重要課題と考えています。

段ボール製品の製造等の事業活動における、環境負荷の低減や、社会に貢献する製品の提供を、全社一丸となって、自主的・積極的に環境への取組を継続的に進めてまいります。

<行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- ① 電力・自動車燃料・LPG等の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減。
- ② 廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進。
- ③ 水資源の節約。
- ④ 有害な化学物質使用を削減。
- ⑤ グリーン購入やグリーン調達の推進。
- ⑥ 環境に配慮した製品の開発、製造、販売を促進。
- ⑦ 工場周辺の清掃活動の推進。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

3. 環境方針は全従業員に周知するとともに公表します。

制定日：2013年11月11日

改定日：2023年 6月 1日

代表取締役

堀井 徹

4. 環境経営目標

第2次中期3ヵ年計画の全社指標

環境活動テーマ	項目	全社指標
電力の二酸化炭素削減	電力使用量	前年度の原単位(生産量当たり)を毎年1%削減
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	前年度の実績から毎年1%削減
	軽油使用量	前年度の実績から毎年1%削減
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量	前年度の実績から毎年1%削減
	灯油使用量	前年度の実績から毎年1%削減
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	前年度の実績から毎年1%削減
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	前年度の原単位(生産量当たり)を毎年1%削減
水使用量削減	水道水使用量	前年度の実績から毎年1%削減

※2022年9月の野田工場コルゲート停止に伴い「ボイラーの二酸化炭素排出量削減」項目を削除しました。

※いわき工場は太陽光発電や新設備を有する新工場を建設し、2024年1月から稼働しています。

既存施設については上記の指標に基づき活動します。

4-1 野田工場

(2023年4月27日 改定)

年 度 項 目		単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
			実績	目標	目標	目標
電力の二酸化炭素削減	電気使用量	kWh	571, 071	使用量把握	2023 年実績 を基に設定	2023 年実績 を基に設定
	原単位	kWh/t	68. 94	原単位把握	〃	〃
自動車燃料の二酸化炭 素排出量削減	ガソリン使用量	ℓ	18, 275. 78	18, 093. 02	17, 912. 09	17, 732. 97
	軽油使用量	ℓ	1, 566	1, 550	1, 535	1, 520
その他燃料の二酸化炭 素削減	LPG 使用量	kg	5, 134	使用量把握	2023 年実績 を基に設定	2023 年実績 を基に設定
	原単位	kg/t	0. 62	原単位把握	〃	〃
	灯油使用量	ℓ	65	64	63	62
二酸化炭素排出量		kg-CO2	514, 378. 61	排出量把握	2023 年実績 を基に設定	2023 年実績 を基に設定
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	1, 595	1, 579	1, 563	1, 547
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	28, 330	28, 047	27, 766	27, 488

	原単位	kg/t	3.42	原単位把握	2023 年実績 を基に設定	2023 年実績 を基に設定
水使用量削減	水道水使用量	m ³	590.5	585	579	573
有害化学物質適切管理		—	月次購入量の把握			
グリーン購入の推進		—	グリーン購入を率先して実施			
製品への環境配慮		—	FSC 認証製品の販売促進、適正運用			

中期計画の主な改正点

- ② 2023 年度の目標値は前年度の実績に対する増減とし、2024 年度、2025 年度は前年目標値の 1%削減とした。
- ③ 電力の排出係数は、北海道電力㈱の令和 2 年度調整後排出係数 0.601kg-CO₂/kWh を使用。
- ④ 2022 年 9 月のコルゲート停止に伴い、電気、LPG、生産量が大きく変更となった。そのため、2023 年度は使用量を把握することとし、2024 年度以降に目標値を設定する。

4-2 いわき工場

(2023 年 4 月 27 日 改定)

年 度			2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
項 目			実績	目標	目標	目標
電力の二酸化炭素削減	電気使用量	kWh	265,296	262,643	260,017	257,417
	原単位	kWh/t	58.83	58.24	57.66	57.08
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	ℓ	7,448.18	7,373.7	7,300.0	7,227.0
	軽油使用量	ℓ	0	0	0	0
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量	kg	28.9	28.61	28.32	28.04
	灯油使用量	ℓ	223	221	219	217
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	156,671.56	145,912.33	144,454.57	143,010.59
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	628.63	622.34	616.12	609.96
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	5,720	5,663	5,606	5,550
	原単位	kg/t	1.27	1.26	1.25	1.24
水使用量削減	水道水使用量	m ³	382.5	378.68	374.89	371.14
有害化学物質適切管理		—	月次使用量の把握			
グリーン購入の推進		—	グリーン購入を率先して実施			
製品への環境配慮		—	FSC 認証製品の販売促進、適正運用			

中期計画の主な改正点

- ① 2023 年度以降の目標値は前年度の実績に対する増減とし、2024 年度、2025 年度は前年目標値の 1%削減とした。
原単位は 1%削減とする。
- ② 電力の排出係数は、東北電力㈱の令和 3 年度調整後排出係数 0.488kg-CO₂/kWh を使用。

4-3 須賀川工場

(2023 年 4 月 27 日 改定)

年 度 項 目		単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
			実績	目標	目標	目標
電力の二酸化炭素削減	電気使用量	kWh	129,272	127,979	126,699	125,432
	原単位	kWh/t	51.48	50.97	50.46	49.96
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	ℓ	4,571.64	4,525.92	4,480.66	4,435.85
	軽油使用量	ℓ	0	0	0	0
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量	kg	25.5	25.25	25.00	24.75
	灯油使用量	ℓ	1,840	1,822	1,804	1,786
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	82,873.56	77,565.55	76,791.2	76,023.38
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	475.9	471.14	466.43	461.77
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	1,740	1,723	1,706	1,689
	原単位	kg/t	0.69	0.68	0.67	0.66
水使用量削減	水道水使用量	m ³	271	268.29	265.61	262.95
有害化学物質適切管理		—	月次使用量の把握			
グリーン購入の推進		—	グリーン購入を率先して実施			
製品への環境配慮		—	FSC 認証製品の販売促進、適正運用			

中期計画の主な改正点

- ① 2023 年度以降の目標値は前年度の実績に対する増減とし、2024 年度、2025 年度は前年目標値の 1%削減とした。
- ② 電力の排出係数は、東北電力㈱の令和 3 年度調整後排出係数 0.488kg-CO₂/kWh を使用。

4-4 藤沢工場

(2023 年 4 月 27 日 改定)

年 度 項 目		単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
			実績	目標	目標	目標
電力の二酸化炭素削減	電気使用量	kWh	22,683	22,456.17	22,231.61	22,009.29
	原単位	kWh/t	1,401.05	1,387.04	1,373.17	1,359.44
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	ℓ	2,198.06	2,176.08	2,154.32	2,132.78
	軽油使用量	ℓ	5,881.68	5,822.86	5,764.63	5,706.98
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量	kg	0	0	0	0
	灯油使用量	ℓ	0	0	0	0
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	30,277.44	29,974.66	29,674.91	29,378.15
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	200	198	196	194
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	450	446	442	438
	原単位	kg/t	27.79	27.51	27.23	26.96

水使用量削減	水道水使用量	m ³	—	—	—	—
有害化学物質適切管理		—	月次購入量の把握			
グリーン購入の推進		—	グリーン購入を率先して実施			
製品への環境配慮		—	FSC 認証製品の販売促進、適正運用			

中期計画の主な改正点

- ① 2023 年度以降の目標値は前年度の実績に対する増減とし、2024 年度、2025 年度は前年目標値の 1%削減とした。
- ② 電力の排出係数は東京電力エナジーパートナー(株)の令和 2 年度調整後排出係数 0.441kg-CO₂/kWh を使用
- ③ 水使用量は敷地内会社との共用に付き測定出来ないなので定性評価とする。

5. 環境経営計画

第 2 次中期 3 ヶ年計画に於ける環境経営計画の主要な内容は以下のとおりです。

○：対象 —：対象外

環境経営方針	活動テーマ	環境活動実施内容	野田工場	いわき工場	須賀川工場	藤沢工場
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素削減					
	実施内容	不必要な照明の消灯	○	○	○	○
		太陽光発電設備の導入	—	○	—	—
		空調の適温化/適度使用	○	○	○	○
		空調機フィルター定期的清掃	○	○	○	○
		生産工程の最適化	○	○	○	○
		PC 電源一括コントロール	○	—	—	—
	中期計画	LED 照明への更新	○	○	○	○
		省エネタイプエアコンへの更新	○	○	○	○
	自動車燃料の二酸化炭素削減					
	実施内容	エコドライブ等運転方法の配慮	○	○	○	○
	中期計画	車両更新時低燃費車選択	○	○	○	○
		運転チェックシート導入	○	○	○	○
	その他燃料の二酸化炭素削減					
	実施内容	フォークリフトの適正使用	○	—	—	—
		防寒対策による灯油の適正使用	○	○	○	—
廃棄物削減	実施内容	フォークリフトのバッテリー化への切り替え	○	—	—	—
		省エネタイプのエアコンへ更新し灯油の使用削減	○	○	○	—
		印刷物部数が最小になるよう考慮	○	○	○	○
		社内用印刷物の両面使用	○	○	○	○
		社内用文書の裏紙活用	○	○	○	○
		文書の電子化によるペーパーレス化促進	○	○	○	○
	中期計画	分別回収ボックスの適正配置	○	○	○	○

		納品の際の梱包、包装資材等の削減	○	○	○	○
		ペーパーレス FAX システム導入	○	○	○	○
	産業廃棄物削減					
	実施内容	不良在庫防止の徹底	○	○	○	○
		作業ミスによる廃棄量の削減	○	○	○	○
	中期計画	塗料や洗浄剤等のタンク集約化	○	○	○	—
		水質汚濁法令基準より厳しい自主管理基準設定	○	○	○	○
水使用 量削減	水道水の削減					
	実施内容	日常的な節水の励行	○	○	○	○
		生産工程において節水の励行	○	○	○	○
	中期計画	生産工程で使用する水の再利用	○	○	○	○
		バルブの調整による水量・水圧の調節	○	○	○	○
		雨水利用	○	○	○	○
化 学 物 質削減	有害化学物質の適切な管理					
	実施内容	使用化学物質の把握	○	○	○	○
	中期計画	代替物質への切り替え	○	○	○	○
グリー ン購入	グリーン購入の推進					
	実施内容	事務用品のグリーン購入	○	○	○	○
環 境 配 慮	製品への環境配慮					
	実施内容	環境配慮製品販売促進	○	○	○	○
		PRTR 物質の削減、代替	○	○	○	○
	中期計画	環境配慮製品の販売目標設定、計画的販売促進	○	○	○	○

注 1.野田工場のボイラーは 2022 年 9 月末で撤去しました。

6. 環境経営目標の実績

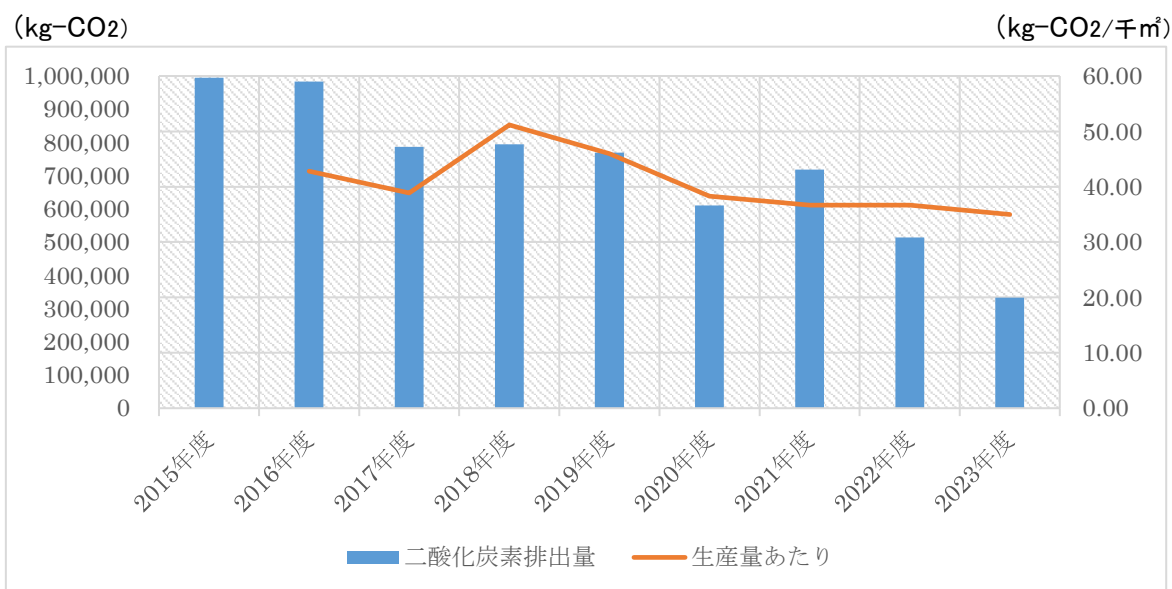
6-1 野田工場

【評価】 ◎:110%以上達成、○:100~109%達成、△:95~99%達成、×:95%以下の達成

年 度 項 目		2023 年度 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)		
		目 標	実 績	評 価
電力の二酸化炭素削減	電気使用量 kWh	使用量把握	454,818	—
	原単位 kWh/t	原単位把握	73.96	—
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量ℓ	18,093.02	18,440	△
	軽油使用量 ℓ	1,550	1,795	×
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量 kg	使用量把握	4,061	—
	原単位 Kg/t	原単位把握	0.66	—

	灯油使用量 ℓ	64	64	○
二酸化炭素排出量	kg-CO2	排出量把握	333, 099. 88	—
一般廃棄物の削減	自社廃棄物 kg	1, 579	234	◎
産業廃棄物の削減	自社廃棄物 kg	28, 047	17, 740	◎
	原単位 kg/t	原単位把握	2. 88	—
節水	水道水使用量 m ³	585	657. 5	×
有害化学物質の適切な管理	化学物質購入量把握	購入量把握	購入量把握 (負荷シート記載)	○
グリーン購入の推進	グリーン購入の実施	グリーン購入を 率先して実施	グリーン購入を率 先して実施した	○
製品への環境配慮	—	FSC 製品 の適正運用	FSC 製品を適正に 運用し販売した	○

2023 年度実績における電力の排出係数は、北海道電力㈱の 0.601kg-CO2/kWh を用いた。



＜2023 年度環境経営活動のまとめ＞

- ① 2022 年 9 月にコルゲートを撤去したことに伴い、電気、ボイラー燃料、LPG、二酸化炭素総排出量、産業廃棄物、各項目の原単位の数値に大きく変化が生じた為 2023 年度は数値把握とした。2024 年度以降は目標値を設定し活動を行う。
- ② 産業廃棄物は大幅に削減することができた。今後も 3 S 強化の上、廃棄物削減を徹底していく。
- ③ 水道水の削減は目標が達成できなかったため、日頃から節水意識を高めること、及び水漏れ等の管理を更に徹底していく。
- ④ 有害化学物質の適切な管理は含有物質の使用量把握が確実に出来た。
- ⑤ グリーン購入は事務用品で継続的に実施した。

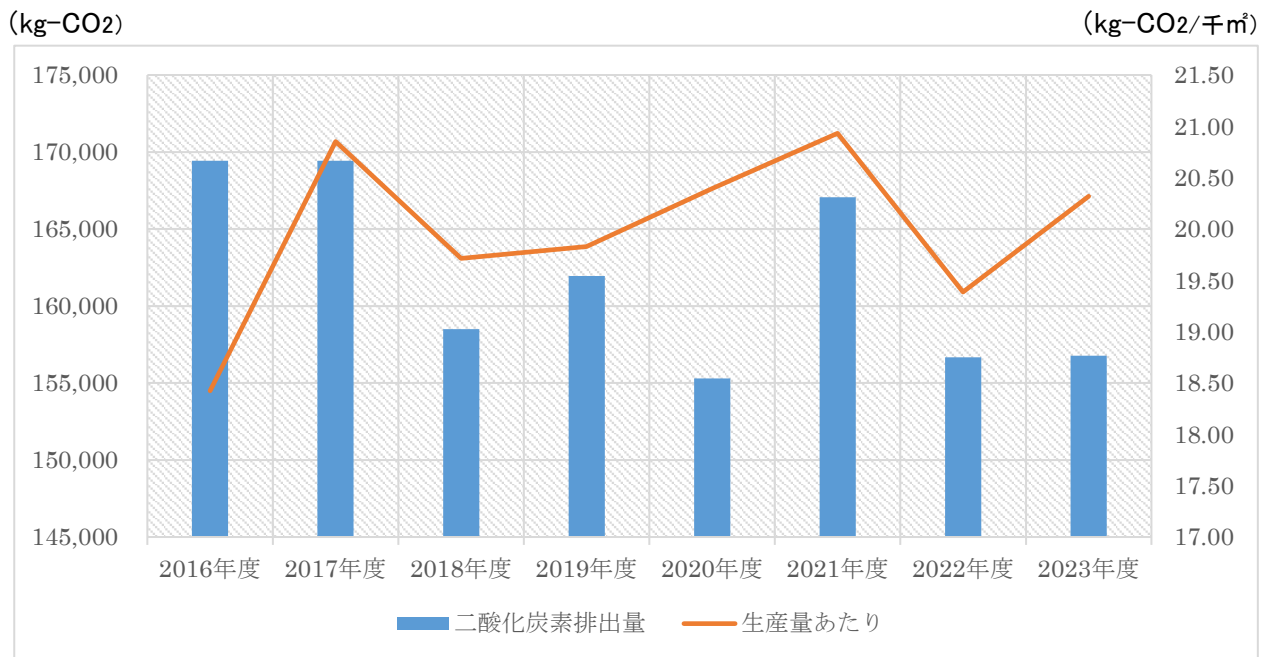
6-2 いわき工場

【評価】 ◎:110%以上達成、○:100～109%達成、△:95～99%達成、×:95%以下の達成

項 目		2023 年度 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)		
		目標	実績	評価
電力の二酸化炭素削減	電気使用量 kWh	262, 643	268, 180	△
	太陽光発電使用量 kWh	—	19, 158	—
	原単位 kWh/t	58. 24	66. 74	×
自動車燃料の二酸化炭素	ガソリン使用量ℓ	7, 374. 7	11, 136. 71	×

排出量削減	軽油使用量 ℓ	0	0	—
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量 kg	28.61	23.7	○
	灯油使用量 ℓ	221	0	○
二酸化炭素排出量	kg-CO2	145,912.33	156,780.11	×
一般廃棄物の削減	自社廃棄物 kg	622.34	691.5	×
産業廃棄物の削減	自社廃棄物 kg	5,663	3,280	◎
	原単位 kg/t	1.26	0.76	◎
節水	水道水使用量 m ³	378.68	703	×
有害化学物質の適切な管理	化学物質使用量把握	使用量把握	使用量把握(負荷シート記載)	○
グリーン購入の推進	グリーン購入の実施	グリーン購入を率先して実施	グリーン購入を率先して実施した	○
製品への環境配慮	—	FSC 製品販売促進	FSC 製品を適正に運用し販売した	○

2023 年度実績における電力の排出係数は、東北電力㈱の 0.488kg-CO2/kWh を使用。



＜2023 年度環境経営活動のまとめ＞

- ① 太陽光発電やオール LED、新印刷機を導入した新工場が 2024 年 1 月より稼働し始め、電気使用量や原単位の見直しが必要となった。2024 年度は数量把握とし、次年度以降目標値を設定する。新工場は環境配慮型となっているので、設備を活かした対応を行う。
- ② 廃棄物削減は大幅に削減することができた。今後も 3 S 強化の上、廃棄物削減を徹底していく。
- ③ 水道水の削減は新工場建設工事中に水道管が破裂したことに伴い使用量が大幅に増加した。引き続き節水に努める。
- ④ 有害化学物質の適切な管理は含有物質の使用量把握が確実に出来た。
- ⑤ グリーン購入は事務用品で継続的に実施した。

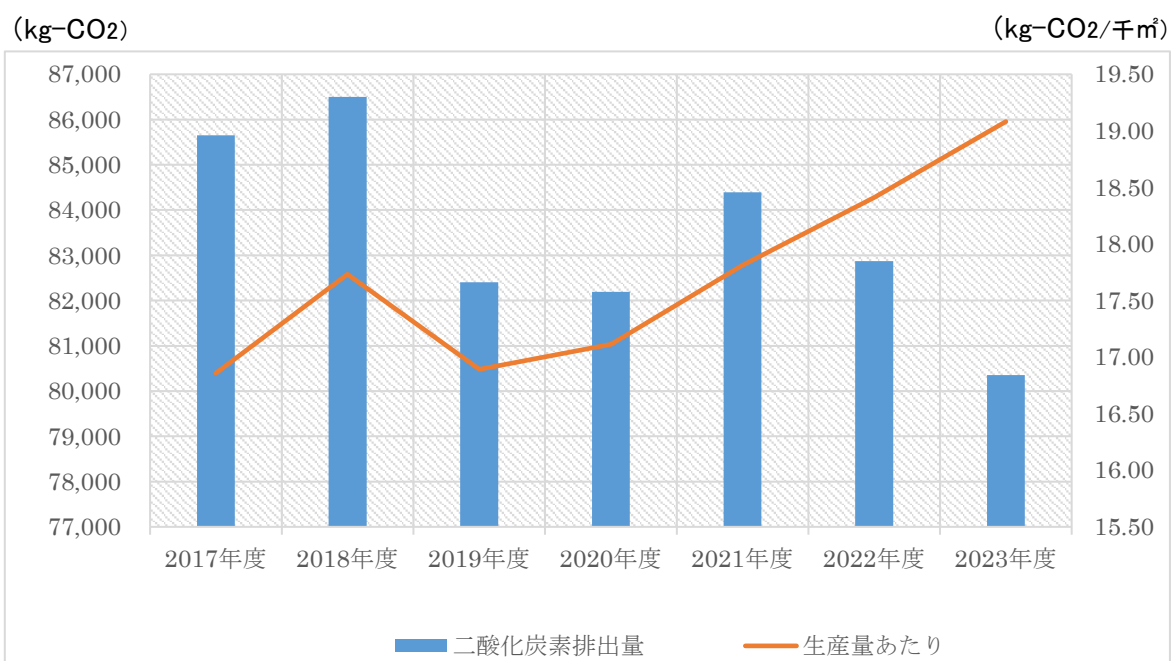
6-3 須賀川工場

【評価】 ◎:110%以上達成、○:100～109%達成、△:95～99%達成、×:95%以下の達成

年 度 項 目		2023 年度 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)		
		目標	実績	評価
電力の二酸化炭素削減	電気使用量 kWh	127,979	128,138	△
	原単位 kWh/t	50.97	54.54	×

自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量ℓ	4,525.92	4,355.21	○
	軽油使用量 ℓ	—	142.51	—
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量 kg	25.25	18.8	◎
	灯油使用量 ℓ	1,822	2,930	×
二酸化炭素排出量	kg-CO2	77,565.55	80,355.21	△
一般廃棄物の削減	自社廃棄物 kg	471.14	379.28	◎
産業廃棄物の削減	自社廃棄物 kg	1,723	3,570	×
	原単位 kg/t	0.68	1.52	×
節水	水道水使用量m³	268	246	○
有害化学物質の適切な管理	化学物質使用量把握	使用量把握	使用量把握 (負荷シート記載)	○
グリーン購入の推進	グリーン購入の実施	グリーン購入を 率先して実施	グリーン購入を率 先して実施した	○
製品への環境配慮	—	FSC 製品 販売促進	FSC 製品の 販売促進を行った	○

2023 年度実績における電力の排出係数は、東北電力㈱の 0.488kg-CO2/kWh を使用



＜2023 年度環境経営活動のまとめ＞

- ① 電気使用量、電気原単位が目標未達成となった。生産工程の最適化を再度実施させる。
- ② 産業廃棄物削減では、木パレや汚泥を処分したため目標未達成となった。
引き続き廃棄物の削減に努める。
- ③ 冬季の寒波の影響により、灯油使用量が増加。
- ④ 水道水の削減は、節水意識の浸透、及び水漏れ等の管理が徹底され、目標達成となった。
- ⑤ 有害化学物質の適切な管理は含有物質の使用量把握が確実に出来た。
- ⑥ グリーン購入は事務用品で継続的に実施した。

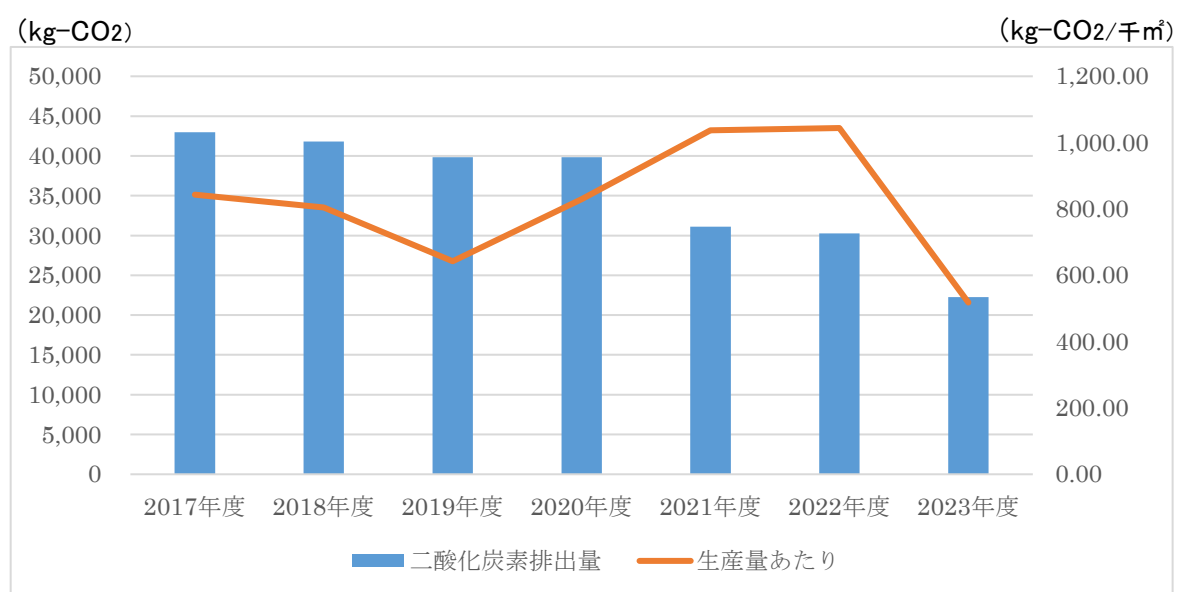
6-4 藤沢工場

【評価】 ◎:110%以上達成、○:100～109%達成、△:95～99%達成、×:95%以下の達成

項 目	年 度	2023 年度 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)		
		目標	実績	評価
電力の二酸化炭素削減	電気使用量 kWh	22,456.17	15,519	◎
	原単位 kWh/t	1,387.04	647.16	◎

自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量ℓ	2,176.08	2,130.64	○
	軽油使用量 ℓ	5,822.86	4,062.31	◎
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量 kg	—	—	—
	灯油使用量 ℓ	—	—	—
二酸化炭素排出量	kg-CO2	29,974.66	22,267.72	◎
一般廃棄物の削減	自社廃棄物 kg	198	205	△
産業廃棄物の削減	自社廃棄物 kg	446	698	×
	原単位 kg/t	27.51	29.11	×
節水	水道水使用量m ³	—	(取組チェックにて評価)	—
有害化学物質の適切な管理	化学物質購入量把握	購入量把握	購入量把握	○
グリーン購入の推進	グリーン購入の実施	グリーン購入を率先して実施	グリーン購入を率先して実施した	○
製品への環境配慮	—	FSC 製品販売促進	FSC 製品を適正に運用し販売した	○

2023 年度実績における電力の排出係数は、東京電力の 0.441kg-CO2/kWh を使用



<2023 年度活動のまとめ>

- ① 電気使用量、電気原単位ともに目標達成となった。引き続き改善活動に取り組む。
- ② 軽油使用量は4tトラックが1台減り目標達成となった。ガソリン使用量の増加は配送回数増が大きく影響しているので、配送頻度についても見直しを行う。
- ③ 節水活動は水道水が共用の為に計測が出来ないので取り組みチェック表で定性評価した。その結果、節水活動は日常的に実施していた。
- ④ 有害化学物質の適切な管理は含有物質の購入量把握が確実に出来た。
- ⑤ グリーン購入は事務用品で継続的に実施した。



7. 環境経営計画の実績

7.1 環境経営計画実施状況

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

環境経営方針	活動テーマ	環境経営計画実施内容	野田工場	いわき工場	須賀川工場	藤沢工場
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素削減					
	実施内容	不必要な照明の消灯	○	○	○	○
		太陽光発電設備の導入	—	○	—	—
		空調の適温化/適度使用	○	○	○	○
		空調機フィルター定期的清掃	○	○	○	○
		生産工程の最適化	○	○	○	○
		PC 電源一括コントロール	○	—	—	—
	中期計画	LED 照明への更新	○	○	○	△
		省エネタイプエアコンへの更新	○	○	○	△
	自動車燃料の二酸化炭素削減					
	実施内容	エコドライブ等運転方法の配慮	○	○	○	○
	中期計画	車両更新時低燃費車選択	○	○	○	○
		運転チェックシート導入	○	○	○	○
	その他燃料の二酸化炭素削減					
実施内容	フォークリフトの適正使用	○	—	—	—	
	防寒対策による灯油の適正使用	○	○	○	—	
	中期計画	フォークリフトのバッテリー化への切り替え	△	—	—	—
		省エネタイプのエアコンへ更新し灯油の使用削減	○	○	△	—
廃棄物削減	一般廃棄物の削減					
	実施内容	印刷物部数が最小になるよう考慮	○	○	○	○
		社内用印刷物の両面使用	○	○	○	○
		社内用文書の裏紙活用	○	○	○	○
		文書の電子化によるペーパーレス化促進	△	△	△	△
	中期計画	分別回収ボックスの適正配置	○	○	○	○
		納品の際の梱包、包装資材等の削減	○	○	○	○
		ペーパーレス FAX システム導入	×	×	×	×
産業廃棄物削減						
実施内容	不良在庫防止の徹底	○	○	○	○	
	作業ミスによる廃棄量の削減	○	○	○	○	
中期計画	塗料や洗浄剤等のタンク集約化	○	○	△	—	
	水質汚濁法令基準より厳しい自主管理基準設定	○	○	○	○	
水使用量削減	水道水の削減					
	実施内容	日常的な節水の励行	○	○	○	○
		生産工程において節水の励行	○	○	○	○
	中期計画	生産工程で使用する水の再利用	○	○	○	○
		バルブの調整による水量・水圧の調節	○	○	○	○
雨水利用		×	×	×	×	

化学物質削減	有害化学物質の適切な管理					
	実施内容	使用化学物質の把握	○	○	○	○
	中期計画	代替物質への切り替え	×	×	×	×
グリーン購入	グリーン購入の推進					
	実施内容	事務用品のグリーン購入	○	○	○	○
環境配慮	製品への環境配慮					
	実施内容	環境配慮製品販売促進	○	○	○	○
		PRTR 物質の削減、代替	×	×	×	×
	中期計画	環境配慮製品の販売目標設定、計画的販売促進	○	○	○	○

＜2023 年度環境経営活動のまとめ＞

2023 年度環境活動の評価は上記のとおりでした。

2024 年度以降は×△を○にすべく取り組んでいきます。

7.2 内部監査実施結果

内部監査は 2024 年 3 月 11 日～3 月 14 日の期間に各工場で実施しました。

内部監査結果、各工場において連続した目標未達成項目があり、是正処置対象となりました。今後の目標達成に向けた取り組みについて確認しました。

7.3 地域環境活動

飛島建設株式会社 様のお呼びかけにより始まった、毎年恒例 5 月 30 日の「ゴミゼロ」運動。工場周辺一帯の清掃を行いました。この運動が派生し、月一回以上の周辺清掃を行っています。



7.4 緊急時訓練実施

野田工場、いわき工場、藤沢工場は火災を想定した避難訓練、須賀川工場においては地震を想定した避難訓練を行いました。



野田工場



いわき工場



須賀川工場



藤沢工場

7.5 AED 講習会

2024 年 3 月に各工場において AED 講習会を実施し、AED の取り扱い方法の確認し、心臓マッサージ等を体験しました。



7.6 社会貢献活動

第20回千葉県生涯者技能競技大会 アビリンピック千葉2023 競技種目 製品パッキングにて
競技課題の設計・競技資材の提供、及び大会当日の審査員、補佐員の派遣を致しました。



7.7 ちばSDGs パートナー登録制度に認定されました

1 関係するSDGs目標（ゴール）

①貧困 1 貧困をなくそう		②飢餓 2 飢餓をゼロに		③保健 3 すべての人に健康と福祉を		④教育 4 質の高い教育をみんなに	
⑤ジェンダー 5 ジェンダー平等を實現しよう		⑥水・衛生 6 安全な水とトイレを世界中に		⑦エネルギー 7 持続可能なエネルギーをみんなに	◯	⑧成長・雇用 8 働きがいも経済成長も	
⑨イノベーション 9 産業と雇用創出の基盤をつくる		⑩不平等 10 社会の公平性を追求しよう		⑪都市 11 住み続けられるまちづくりを	◯	⑫消費・生産 12 つくる責任 つかう責任	◯
⑬気候変動 13 気候変動に具体的な対策を	◯	⑭海洋資源 14 海の豊かさを守ろう		⑮陸上資源 15 陸の豊かさも守ろう	◯	⑯平和 16 平和と公正をすべての人に	
⑰実施手段 17 パートナーシップで目標を達成しよう	◯						

2 SDGs 達成に向けた経営方針等

SDGs 推進に取り組む他企業や地域の様々な団体、学校等と連携し、持続可能な社会づくりを進めます。

- ・エコアクション 21 環境経営を進め、環境に配慮した経営を進めます。
- ・事業者から排出された廃棄物の適正処理に努めます。
- ・取引事業者様へ SDGs を知ってもらえるよう、普及啓発に取り組みます。



8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

8-1 野田工場

(2024 年 4 月 26 日改定)

項 目		年 度	単位	2023 年度	2024 年度	2024 年度
				実績	当初目標	改定目標
電力の二酸化炭素削減	電気使用量	kWh		454,818	2023 年実績を 基に設定	450,270
	原単位	kWh/t		73.96	〃	73.22
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	ℓ		18,440	17,912.09	18,255.6
	軽油使用量	ℓ		1,795	1,535	1,777
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量	kg		4,061	2023 年実績を 基に設定	4,020.39
	原単位	kg/t		0.66	〃	0.65

	灯油使用量	ℓ	64	63	63
二酸化炭素排出量		kg-CO2	333,099.88	2023 年実績を 基に設定	329,769
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	234	1,563	232
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	17,740	27,766	17,563
	原単位	kg/t	2.88	2023 年実績を 基に設定	2.85
水使用量削減	水道水使用量	m ³	657.5	585	650.93
有害化学物質適切管理		—	月次購入量把握		
グリーン購入の推進		—	グリーン購入を率先して実施		
製品への環境配慮		—	FSC 認証製品の販売促進、適正運用		

第2次中期3ヵ年計画の主な改正点

- ① 2022 年 9 月のコルゲート停止、及びシート生産終了に伴い、電気、LPG、二酸化炭素排出量、各項目の原単位の数値が大幅に変更となった。そのため、2023 年度は目標値の設定が困難なため数値把握とし、2024 年度から目標値を定めることとする。
- ② 電力の排出係数は、北海道電力㈱の令和 2 年度調整後排出係数 0.601kg-CO2/kWh を使用。
- ③ 化学物質は購入量把握とする。
- ④ グリーン購入は、事務用品等購入の際は率先して購入するよう努める。

8-2) いわき工場

(2024 年 4 月 26 日改定)

年 度 項 目		単位	2023 度	2024 年度	2024 年度
			実績	当初目標	改定目標
電力の二酸化炭素削減	電気使用量	kWh	268,180	260,017	実績把握
	太陽光発電電気使用量	kWh	19,158	—	〃
	原単位	kWh/t	66.74	57.66	〃
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	ℓ	11,136.71	7,300.0	11,025
	軽油使用量	ℓ	0	0	0
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量	kg	23.7	28.32	—
	灯油使用量	ℓ	0	219	0
二酸化炭素排出量		kg-CO2	156,780.11	144,454.57	実績把握
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	691.5	616.12	684.59
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	3,280	5,606	3,247
	原単位	kg/t	0.76	1.25	0.75
水使用量削減	水道水使用量	m ³	703	374.89	695.97
有害化学物質適切管理		—	月次使用量の把握		
グリーン購入の推進		—	グリーン購入を率先して実施		

製品への環境配慮	—	FSC 認証製品の販売促進、適正運用
----------	---	--------------------

主な改正点

- ① 2024 度の目標値は前年度実績に対する増減とした。
原単位は 1%削減とする。
- ② 電力の排出係数は、東北電力(株)の令和 3 年度調整後排出係数 0.488kg-CO₂/kWh を使用。
- ③ 電気使用量、電気原単位については実績把握とする。
- ④ LPG は新工場稼働に伴い使用することがなくなったので、目標設定の項目からは除くことにした。
- ⑤ 化学物質は生産に使用するインキ成分が主で、削減することが出来ないので使用量把握とする。
- ⑥ グリーン購入は、事務用品等購入の際は率先して購入するよう努める。

4-3 須賀川工場

(2024 年 4 月 26 日 改定)

年 度 項 目		単位	2023 度	2024 年度	2024 年度
			実績	当初目標	改定目標
電力の二酸化炭素削減	電気使用量	kWh	128, 138	126. 699	126, 857
	原単位	kWh/t	54. 54	50. 46	53. 99
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	ℓ	4, 355. 21	4, 480. 66	4, 311. 66
	軽油使用量	ℓ	142. 51	0	実績把握
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量	kg	18. 8	25. 00	18. 61
	灯油使用量	ℓ	2, 930	1, 804	2, 901
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	80, 355. 21	76, 791. 20	79, 187. 66
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	379. 28	466. 43	375. 49
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	3, 570	1, 706	3, 534
	原単位	kg/t	1. 52	0. 67	1. 50
水使用量削減	水道水使用量	m ³	246	265. 61	243. 54
有害化学物質適切管理		—	月次使用量の把握		
グリーン購入の推進		—	グリーン購入を率先して実施		
製品への環境配慮		—	FSC 認証製品の販売促進、適正運用		

主な改正点

- ① 2024 年度の目標値は前年度実績に対する増減とした。
原単位は 1%削減とする。
- ② 電力の排出係数は、東北電力(株)の令和 3 年度調整後排出係数 0.488kg-CO₂/kWh を使用。
- ③ 軽油使用量は実績把握とする。
- ④ 化学物質は生産に使用するインキ成分が主で、削減することが出来ないので使用量把握とする。
- ⑤ グリーン購入は、事務用品等購入の際は率先して購入するよう努める。

4-4 藤沢工場

(2024 年 4 月 26 日 改定)

年 度 項 目		単位	2023 年度	2024 年度	2024 年度
			実績	当初目標	改定目標
電力の二酸化炭素削減	電気使用量	kWh	15,519	22,231.61	15,363.81
	原単位	kWh/t	647.16	1,373.17	640.69
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン使用量	ℓ	2,130.64	2,154.32	2,109.33
	軽油使用量	ℓ	4,062.31	5,764.63	4,021.69
その他燃料の二酸化炭素削減	LPG 使用量	kg	0	0	0
	灯油使用量	ℓ	0	0	0
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	22,267.72	29,674.91	22,045.05
一般廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	205	196	203
産業廃棄物の削減	自社廃棄物	kg	698	442	691
	原単位	kg/t	29.11	27.23	28.82
有害化学物質適切管理		—	月次購入量の把握		
グリーン購入の推進		—	グリーン購入を率先して実施		
製品への環境配慮		—	FSC 認証製品の販売促進、適正運用		

主な改正点

- ① 2024 年度の目標値は前年度実績に対する増減とした。
原単位は 1%削減とする。
- ② 電力の排出係数は東京電力エナジーパートナー(株)の令和 2 年度調整後排出係数 0.441kg-CO₂/kWh を使用
- ③ 水使用量は敷地内会社との共用に付き測定出来ないもので定性評価とする。
- ④ 化学物質は繰越量、使用量が不明確なので購入量把握とする。
- ⑤ グリーン購入は、事務用品等購入の際は率先して購入するよう努める。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

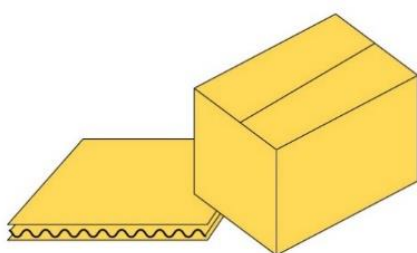
当社に係る環境関連法規制は次の通りです。

■は該当部門

法規制等の名称		該当する要求事項	該当する設備・項目	野田工場	いわき工場	須賀川工場	藤沢工場
基本・一般	環境基本法		—	■	■	■	■
	地球温暖化対策の推進に関する法律	・事業者の責務(温室効果ガスの排出の抑制に努める)	—	■	■	■	■
大気	大気汚染防止法	・事故時の措置と届出	—	—	—	—	—
		・特定施設の届出		—	—	—	—
		・排出基準の遵守		—	—	—	—
		・排出濃度の測定・記録(3年保存)、監視		—	—	—	—
	NOx・PM法	・対策地区内で排気ガス規制に適合した自動車の使用	・運搬車	■	—	—	■
	フロン排出抑制法	・空調機 7.5kW 以下の簡易点検	・エアコン(スポット含む)	■	■	■	■
水質	浄化槽法	・使用届	・浄化槽	■	■	■	—
		・定期水質検査		■	■	■	—
	水質汚濁防止法	・有害物質使用設備の届出	—	—	—	—	—
		・漏洩防止、浸透防止の年一回の定期点検。	—	—	—	—	—
		・工場排水(特定施設)	・排水処理施設	■	■	■	—
騒音	騒音規制法	・特定施設の事前届出	・印刷機械 ・プラテン(機械プレス)	■	■	—	—
		・地域別騒音基準の遵守		■	—	—	—
振動	振動規制法	・特定施設の事前届出	・印刷機械	■	—	—	—
		・地域別振動基準の順守		—	—	—	—
廃棄物	廃棄物処理法	・委託基準:一廃収集業者の許可の確認	・一般廃棄物(紙くず、繊維くず、生ごみなど)	■	■	■	■
		・委託基準:産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	・産業廃棄物(金属類・廃プラ類・廃ガラス・廃油・木製パレット)	■	■	■	■
		・マニフェスト交付 B2・D票 90 日、E票 180 日以内に送付されない場合は 30 日以内の知事への報告 A、B2、D、E 票の保管(5年間)		■	■	■	■
		・多量排出事業者の報告(1000トン/年以上)		—	—	—	—

		・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出		■	■	■	■
		・帳簿の作成(特別管理廃棄物)		—	—	—	—
		・自社による運搬時の表示、書類携行		—	—	—	—
購入 グリーン	グリーン購入法	できる限り環境物品等を選択するよう努める	購入品・調達品 購入先・外注先	■	■	■	■
容器包装 リサイクル	容器包装リサイクル法	・再商品化義務	容器の利用	■	■	■	■
		定期報告義務 ・前年度に用いた容器包装の量が50トン以上		—	—	—	—
化学物質	化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	・第1種指定化学物質取扱者は排出・移動量を報告(年間取扱量1トン以上で従業員21名以上の場合)	第1種指定化学物質(515物質)	—	—	—	—
		・性状及び取扱に関する情報(SDS)の受取・発行	第2種指定化学物質(134物質)も対象	■	■	■	■
危険物	消防法	・危険物保管の指定数量以上の許可申請 ・危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届出	—	—	—	—	—
		指定数量未満の危険物保管の扱い		—	—	—	—
		指定可燃物届け出	紙類	—	—	—	—

2023年度の野田工場、いわき工場、須賀川工場、藤沢工場での環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
尚、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。又、周辺地域住民からの苦情等もありませんでした。



10. 代表者による全体評価と見直し結果

[見直しに必要な情報] (管理責任者の報告及び改善への提案)									
[取り組み状況の評価結果]									
① 環境関連法規制等の遵守状況 (環境関連法規等遵守評価記録による) ・野田工場、いわき工場、須賀川工場、藤沢工場の定期評価結果は全て遵守されていた。 ②問題点の是正処置及び予防処置の状況 ・連続した目標未達成項目の該当があり是正処置の対象となった。 ・軽微な指摘事項については対策実施状況と有効性を確認する。 ③前回までの代表者の指示事項への対応――PDCAサイクルの継続実施に就いては実施されている。 <改善への提案> ・月次データの迅速な集計体制の構築、及び未達項目への迅速な対応。									
[2023 年度環境目標・環境活動計画の達成状況] (対象期間：2023. 4. 1～2024. 3. 31)									
目標項目	目標値達成状況				活動計画実施状況				コメント (目標値・活動計画に対するコメント)
	野田工場	いわき工場	須賀川工場	藤沢工場	野田工場	いわき工場	須賀川工場	藤沢工場	
電力の CO2 削減									
・使用量	—	×	×	○	○	○	○	○	いわき工場は新設備導入に伴い使用量増加
・原単位	—	×	×	○	○	○	○	○	生産効率化、及びロス削減を心掛ける事
自動車燃料の CO2 削減									
・運搬車両(軽油)	△	—	—	○	○	—	—	○	引き続き配送の効率化を図ること
・営業車(ガソリン)	△	×	○	○	○	○	○	○	更新時エコカー導入を検討すること
その他の削減									
・LPG	—	○	△	—	○	○	○	—	バッテリー化への切り替え検討すること
・灯油	○	○	×	—	○	○	○	—	いわき新工場は断熱材が多く使用されている
二酸化炭素排出量の削減	—	×	×	○	○	○	○	○	更なる環境配慮設備の導入を図ること
廃棄物の削減									
・一般廃棄物	○	△	△	×	○	○	○	○	5S の徹底願います
・産業廃棄物									
・廃棄量	△	△	×	×	○	○	○	○	ストレッチフィルムの使用方法見直し検討
・原単位	—	△	×	△	○	○	○	○	不動態在庫がないよう継続して取り組むこと
水道水の削減	×	×	○	—	○	○	○	—	藤沢工場は供用の為、定性評価を行った。 引き続き、節水・水漏れ等なきよう事前管理に努める事。
有害化学物質適切管理	○	○	○	○	○	○	○	○	野田工場、藤沢工場は購入量を把握、いわき工場と須賀川工場は使用量を把握した
グリーン購入の推進	○	○	○	○	○	○	○	○	事務用品について実施
製品への環境配慮	○	○	○	○	○	○	○	○	FSC 認証製品の販売促進、適正運用

[代表者による見直し]		変更の必要性の有無・指示事項
[環境経営方針]	変更の必要性：	☐ 有 ☒ 無

[目標・活動計画] 変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
・2024年度は2次中期3ヶ年計画を元に活動を推進する。	
[環境経営システム] 変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
[総括] 野田工場はコルゲータ撤去後1年を過ぎ、経過状況が把握できたと思います。新たな目標計画の上、更なる取り組みをお願い致します。 いわき工場は新設備が加わり、使用環境も異なってきています。前年の使用量・原単位が参考となりません。設備にあった、設備を生かした使用を心掛け、効率的な活動を目指しての取り組みを期待しています。	

